

要 点 録

会議の名称	第4回田村駅周辺整備基本構想策定懇話会																				
開催日時	平成28年6月6日（月）10時00分～11時20分																				
委 員	<p>出席者</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">仁連 孝昭</td> <td>公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長</td> </tr> <tr> <td>井 恒昭</td> <td>社会福祉法人石龍会 理事長</td> </tr> <tr> <td>川崎 他家廣</td> <td>長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長</td> </tr> <tr> <td>畑下 嘉之</td> <td>社会福祉法人青祥会 理事長</td> </tr> <tr> <td>広内 正雄</td> <td>田村町自治会 自治会長</td> </tr> <tr> <td>松居 繁隆</td> <td>長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議</td> </tr> <tr> <td>松本 秀章</td> <td>滋賀文教短期大学 副学長</td> </tr> </table> <p>欠席者</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">西田 英一郎</td> <td>田村町まちづくり委員会 委員長</td> </tr> <tr> <td>若林 浩文</td> <td>長浜バイオ大学 理事長</td> </tr> <tr> <td>西嶋 照毅</td> <td>滋賀県長浜土木事務所 所長</td> </tr> </table>	仁連 孝昭	公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長	井 恒昭	社会福祉法人石龍会 理事長	川崎 他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長	畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長	広内 正雄	田村町自治会 自治会長	松居 繁隆	長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議	松本 秀章	滋賀文教短期大学 副学長	西田 英一郎	田村町まちづくり委員会 委員長	若林 浩文	長浜バイオ大学 理事長	西嶋 照毅	滋賀県長浜土木事務所 所長
仁連 孝昭	公益社団法人 滋賀県環境保全協会 会長																				
井 恒昭	社会福祉法人石龍会 理事長																				
川崎 他家廣	長浜地方卸売市場株式会社 代表取締役社長																				
畑下 嘉之	社会福祉法人青祥会 理事長																				
広内 正雄	田村町自治会 自治会長																				
松居 繁隆	長浜・米原まんなか夢のまちづくり会議																				
松本 秀章	滋賀文教短期大学 副学長																				
西田 英一郎	田村町まちづくり委員会 委員長																				
若林 浩文	長浜バイオ大学 理事長																				
西嶋 照毅	滋賀県長浜土木事務所 所長																				
事務局	<p>長 浜 市：中川都市建設部次長兼都市計画課長</p> <p>都市計画課：雨森副参事 佃主事</p> <p>(株)地域計画建築研究所 山本氏 田中氏</p>																				
会議の内容	<p>1 あいさつ</p> <p style="padding-left: 20px;">都市建設部 次長</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">田村駅周辺整備基本構想（素案）について</p> <p style="padding-left: 40px;">－ 資料に基づき、事務局説明 －</p> <p><前回資料との相違点></p> <p>前回の資料では、南長浜に新都市をつくるということであったが、現在の長浜市として都市の2極化という誤解を招くおそれがあるため、市域南部の生活拠点という表現に変更した。</p> <p><参考資料の取り扱いについて></p> <p>参考資料については、今回の懇話会で議論するための資料であり、非公開とすることを決定した。</p> <p><参考資料について></p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街化区域では、既に一部で開発が進んでいるが、将来の地域の望ましい姿に応じた開発に誘導していくことが大事である。良好なまちづくりが進むようなモデルを示す必要があり、事務局に土地利用イメージ（例）を描いてもらった。 一つ目は、文化施設等の設置。既にバイオ大学や文教短大をはじめ学術教育施 																				

設の立地があるにもかかわらず、それに見合った地域の整備が全く行われていない。そういう点で、シーズを生かしながら学術・教育・文化機能を高めていくことが、今後のこの地域の発展にとって重要ではないかということである。

二つ目は、店舗と住宅を併設した土地利用。人口が定着するには、利便性の向上が必要である。この地域で便利施設を導入していくことを展望するような施設が必要ではないかということである。

三つ目は、今までの良好な環境を維持しながら居住人口を増やすこと。そのためには良好な住宅環境だけではなく、これからのモデルになるような新しい住宅環境の整備、環境に配慮した住宅地開発が必要ではないかということである。

これらのイメージ図はあくまで例であり、この地域の将来をイメージするために既に市街化されている区域にどのようなものを誘導するかが重要だ。この地域の特徴、田村山をはじめとする自然環境、周辺の農地などと共存しうるような住宅地のイメージを作っていくことが大事ではないか。もう一つは、バイオ大学、文教短大など既存の施設との整合を図り、施設の機能を更に前に進めていくような文化施設の整備が大事ではないかということである。

【意見等】

- ・長浜市では年に1千人が転出し、特に10-15歳、40-45歳の最も子育てに忙しい年齢層が米原、彦根に転出している。教育・文化・芸術・スポーツなどの分野に要素があるのではないか。この地域に大学はあるが、私立の小・中・高の誘致や、運動の好きな子ども達をいかに育てていくかが大事である。また、高齢者も増加しており、高齢者施設をこの地域で充実させることも議論してはどうか。
- ・田村地区は12～13年前から何も変わっていない。市街化区域になり、多少の開発はあると思うが、どんな施設が来て、駅の改修をJRに要望するような議論ができるまちづくりは何もできていない。子どもや孫が長浜に住み続けるためにはどうすればよいのかも含め、議論すればと思う。
- ・坂田駅の駅前はよくなってきた。長浜から米原に人口が流れていると思う。近江はそれほど地価も安くないが、利便性がよいからだと思う。田村はこれから自由に豊かなまちづくりの絵が描ける場所。地元の方も関心があり、これからどうしていこうかという意識づけがされていると思う。
- ・三つ目のイメージで、共用オープンスペースとあるが、具体的にどのようなイメージか。
 - （事務局）通常に分譲住宅地は、個々の敷地境界は隣地と接するが、空間的に余裕を持たせ、緑地や通路などのオープンスペースを配してはどうかというイメージである。ここに農地を作ることも一つの案であり、共用スペースとして歩行者専用の車の通らない空間とすることも考えられる。
- ・具体的な場所を想定しているのか。
 - （事務局）田村町の北側の田んぼ付近をイメージしている。付加価値のある分譲住宅地というイメージである。
- ・業者が田村町に入り、これ以上虫食い状態にならないよう、町民に構想の流れを説明していただきたい。これまで文教短大、長浜ドーム、卸売市場、バイオ大学と町内一丸となって今日に至っている。町内の情報共有化のため、市で説明会等

を早急に開いていただきたい。また、以前市長が懇談会で、駅のエレベーター設置などバリアフリー対応や道路拡幅の話がされたが、JRとの交渉は絵が出来てからではなく、同時に進めているという話を町内でお話いただきたい。

・町民の協力で田村駅という名称になり、一部報道では南長浜駅にという話もあったが、町民からはとんでもない話だという声があがった。田村という名称は絶対に維持して欲しい。

・JRに対する説得力という点からすると、具体的な絵を描き、こういう方法で駅利用者を増やすということが必要。行政としても難しいと思うが、卸売市場の所で1千人規模の文化施設を描いて欲しい。また、バイオ大学の北側、高橋町になるが、ここで文教、医療、高齢者福祉など夢のある話があってもよいと思う。田村町の方々にも、より一層前向きなご議論をお願いしたい。

→(事務局) まちづくりの核は駅だと考えている。駅を簡単に直そうと思えば、市が100%負担すればよいが、そういう訳にもいかない。駅の改築は都市計画決定の手続きを経なければならないため、手法的なことも含め今後考えていく。市も国の援助を受けながら段階的に進めていきたい。

→(事務局) 今回のイメージ図の背景にあるのは資料8ページだ。田村駅周辺でどのような魅力をつけていくのかが基本構想のポイント。赤文字で新たな展開と示しているが、例えばバイオ大学と文教短大が連携した時の活動場所として文化施設を想定したり、単なる商業店舗ではイメージが湧かないが、生活利便施設は地元・学生等の利用イメージを示しており、具体性をより膨らませるために作成した。

・スーパーの関係者に話を聞いたが、この区域に人口がもっと増えないと出店できないということだった。また、文化施設でよい講演会を開催するには、駅に近く、1千人規模では少ないくらいだ。ごみが増えるという発想ではなく、地域が潤う、長浜市全体が潤うことを考えることが大事。かなりの経済効果が見込めると思う。

・市街化区域内だけの土地では少ないと思う。3ページに基本構想の想定区域があるが、どういう施設を誘致したら人口が増えるのか、文化施設にしても市街化調整区域での検討も必要になると思う。

・市場は開設から26年が経過し、施設も老朽化し修繕も必要になってきている。30年、40年先、市場がどうなるかは分からない。第10次整備計画を平成29年2月に県が策定するため、これにより動くかと思う。様々な問題があるため簡単ではないと思っているが、10年先になれば、市場自体の方向も変わってくるのではないかと思う。市場としても、市場ありきで考えていただき、移転した場合の土地利用も合わせて考えていただければと思う。

・8ページの中で、赤文字の新たな展開について、人口流出のダム機能としてまちの開発をしていくということだが、誰を呼び込むのかと言えば、やはり若い子育て世代の人たちである。‘農のある暮らし’以外にも何か文字で訴えたらよいのでは。子育て世代を呼び込むメッセージ性や意志を出してはと思う。

子育て世代の関心は、教育に加え、憩いの場所などの環境のことだと思う。田村山があるというのは他にない強み。田村山の開発も、例えば周りを公園にする

など、もう少し具体的に描けると、高齢者の憩いの場にもなるし、地元にもまちづくりが進むメリットを示すことができると思う。

- ・教育・文化機能や、自然に親しんで子どもを育てる環境などを全面的に出していくイメージが外に伝わる計画を作らないといけない。

2つの大学とも学生教育だけではなく、地域との関わりのため、いろいろ工夫されている。大学側も、もっと地域のまちづくりに生かし、足りない機能、幼児教育はもちろん、教育をもっと充実させることなども大事であると思う。

駅名の話があったが、例えば学園前とするなど、駅名や整備も含めて、この地域を教育・文化の拠点にしていくイメージをもてば開発の方向性もはっきりして、具体的に進むのではないかと思う。

公共部門は、整備すべき所にふさわしい施設を誘致することなども含めて進めていく必要があるのではないか。

- ・一番欠けているのは教育の問題だと思うので、教育の充実ということを構想の中でもっと出してはどうか。田村山生き物ネットワークの活動などもこの中に入れて、田村全体のまちづくりを進めていくということを出してはどうか。
- ・バイオ大学の所のアンダーパスの北側の場所など、市場の場所だけでなく少し幅を広げて考えてはどうかと思う。
- ・福祉機能と書いてあるが、高齢者の福祉機能を入れて、近くの保育園と連携できるとよいのではないか。
- ・看護大学などは京都へ行ってしまうので、バイオ大学に看護大学のような機能ができると良いと思う。

- ・今回、文化施設くらいの絵は描けないのか。行政では無理か。

→（事務局）言葉で表現することはできるが、この段階では絵までは無理である。

- ・まずは地元に対して構想を説明してもらうことが必要だ。この懇話会でできなかったら、10年経ってもできないと思う。
- ・行政の提案として、合意のとれたものは提案できるが、夢のないものになってしまう。出来る、出来ないは、これからのがんばり次第である。懇話会の提案としては、もう少し夢のある提案にしても良いと思う。

<今後の進め方>

- ・懇話会について、これから具体的にどう進めていくのか、教えていただきたい。

→（事務局）予定としては、今回（第4回）の案件をパブリックコメントに諮り、市民から幅広く意見を聞かせていただき、田村町にも説明させていただいた後まとめを行い、最後の懇話会で発表させていただきたいと考えている。この基本構想を受けて、次の段階に進める基本計画的なものの策定に向けた体制を今年度中に立ち上げる準備をしているところである。

<座長総括>

今回の懇話会で意見を踏まえ、内容を修正し、冊子形式で正文化・再編集する。冊子の内容は座長が確認し、承認を得たうえで基本構想（案）のパブリックコメントを実施し、市民の意見を伺う。

【今後の予定】

パブリックコメント終了後、8月中旬から下旬頃に、第5回の懇話会で確認していただき、基本構想としてまとめる。

以上